

# 2 SDGsの達成に向けて

SDGs(エスディーゼズ/Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)は、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現をめざす世界共通の目標です。平成27(2015)年の国連サミットにおいてすべての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ<sup>※1</sup>」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17の目標と169のターゲットから構成されています。特徴は、普遍性、包摂性、参画型、統合性、透明性の5つです。

「持続可能な開発のための2030アジェンダ」では、前文において「すべての人々の人権を実現し、ジェンダー<sup>※2</sup>平等とすべての女性と女児のエンパワーメント<sup>※3</sup>を達成することを目指す」との記載があります。また、17の目標のうちの目標5には、「ジェンダー平等を実現しよう」と掲げてあります。さらに、「ジェンダー平等の実現と女性・女児のエンパワーメントは、すべての目標とターゲットにおける進展において死活的に重要な貢献をするものである」とし、新たなアジェンダの実施において、「ジェンダーの視点をシステムティックに主流化していくことは不可欠である」とされています。

本プランでのすべての取組は、SDGsの達成につながっていくという認識のもと、着実に計画を推進していきます。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



5 ジェンダー平等を実現しよう



【目標5】ジェンダー平等を実現しよう

ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを図る

## 目標5におけるターゲット

SDGsの17の目標には、それぞれ具体的なターゲットが設定されています。ターゲットは、各目標の具体的な課題の達成を示したものと、これら課題の達成を実現するための手段や措置について示されているものがあります。

目標5において設定されているターゲットは以下の9つです。

- 5.1 あらゆる場所におけるすべての女性及び女兒に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。
- 5.2 人身売買や性的、その他の種類の搾取など、すべての女性及び女兒に対する、公共・私的空間におけるあらゆる形態の暴力を排除する。
- 5.3 未成年者の結婚、早期結婚、強制結婚及び女性器切除など、あらゆる有害な慣行を撤廃する。
- 5.4 公共のサービス、インフラ及び社会保障政策の提供、ならびに各国の状況に応じた世帯・家族内における責任分担を通じて、無報酬の育児・介護や家事労働を認識・評価する。
- 5.5 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。
- 5.6 国際人口・開発会議（ICPD）の行動計画及び北京行動綱領、ならびにこれらの検証会議の成果文書に従い、性と生殖に関する健康及び権利への普遍的アクセスを確保する。
- 5.a 女性に対し、経済的資源に対する同等の権利、ならびに各国法に従い、オーナーシップ及び土地その他の財産、金融サービス、相続財産、天然資源に対するアクセスを与えるための改革に着手する。
- 5.b 女性の能力強化促進のため、ICTをはじめとする実現技術の活用を強化する。
- 5.c ジェンダー平等の促進、ならびにすべての女性及び女子のあらゆるレベルでの能力強化のための適正な政策及び拘束力のある法規を導入・強化する。

## ※1 持続可能な開発のための2030アジェンダ

アジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、宣言及び目標をかかげたもの。2000年の国連ミレニアム・サミットで策定されたミレニアム開発目標(MDGs)が平成27(2015)年で終了することを受け、国連が今後15年間(2030年まで)の新たな持続可能な開発の指針を策定したもの。

## ※2 ジェンダー

「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）がある。一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」（ジェンダー／gender）という。「社会的・文化的に形成された性別」は、それ自体に良い、悪いの価値を含むものではなく、国際的にも使われている。

## ※3 エンパワーメント

一般的には、個人や集団が自らの力を自覚して、自分の生活や環境をコントロールできるように行動すること。ここでは、女性が自ら意識と能力を高め、政治・経済・家庭等のあらゆる場で意思決定過程に参画するための力をつけること。